

# 日本語学会 第164回大会報告

東京外国語大学大学院

総合国際学研究科博士前期課程

---

ファイズエワ ザリナ (FAYZIEVA Zarina)



# 報告内容

- 大会概要

- 口頭発表紹介

- 田口智大

- 「名詞述語を伴う繰り上げ構文としての人魚構文」

- 日高晋介

- 「ウズベク語における小詞 =*chi* の機能」

# 大会概要

日時 - 2022年6月18日(土)、19日(日)

会場 - オンライン

次回大会 - 2022年11月12日(土)、13(日)

会場 - オンライン

# 大会概要

- 1日目

- 口頭発表: 6会場、計39件(キャンセル1件)
- ポスター発表: 6件

- 2日目

- ワークショップ: 3件
- 公開シンポジウム: 「言語脳科学が切り開く言語学の未来」

# 口頭発表紹介

- 田口智大

「名詞述語を伴う繰り上げ構文としての人魚構文」

- 日高晋介

「ウズベク語における小詞 =*chi* の機能」

田口智大  
「名詞述語を伴う繰り上げ構文としての  
人魚構文」

# 発表の趣旨

- 人魚構文 – 体言締め文、文末名詞文とも呼ばれる。
- 表層的には、**[節]+名詞 (コピュラ)**の構造を持つ (1)

## (1) 日本語<日琉語族

hanako=ga	nagoya=ni	ik-u	yotei=da
Hanako=NOM	Nagoya=DAT	go-AND.NPST	plan=COP
[	節]	名詞 =	コピュラ



## 繰り上げ構文

- 主語から主語への繰り上げ構文 (subject-to-subject raising)  
非定形動詞(non-finite verb) 節中の主語が主節の主語の位置へと繰り上げられる構文

(12) John<sub>i</sub> *seems* [<sub>t<sub>i</sub></sub> *to leave*]



(13) John<sub>i</sub> *is likely* [<sub>t<sub>i</sub></sub> *to leave*]





# Tsunoda (2020): 人魚構文の通言語的・記述的研究

- [節] は連体修飾節ではない
- 「行く予定だ」のような動詞 + 名詞述語で複合述語 (compound predicate) を形成している
- そのため、人魚構文は ((14)のように) 単節 (monoclausal) である

(14) hanako=ga    nagoya=ni    ik-u+yotei=da  
Hanako=NOM    Nagoya=DAT    go.ADN.NPST+plan=COP

## 連体修飾ではない理由(Tsunoda2020):

1. 主題のハを用いることが可能
2. ガ・ノ交替が不可能
3. 人魚構文名詞の直前に他の修飾語を置くことが不可能 (19), (20)

### (19) 人魚構文

hanako=ga    nagoya=ni    ik-u    (#yoi) yotei=da  
Hanako=NOM Nagoya=DAT go-ADN.NPST good    plan=cop

### (20) 連体修飾

hanako=ga    kai-ta    yoi    hon  
Hanako=NOM    write-ADN.PST    good    book

### メリット

1. 文法化現象 (機能語→接語化→接辞化)との相性が良い
2. 人魚構文名詞への修飾語の制約を説明できる
3. 連体修飾節では説明ができないガ格標識・主題表示の制約を説明できる

### デメリット

1. そもそも複合述語の定義が不十分であり、形態統語論的にどのような立ち位置にあるのか不明
2. 単節と言いつけるのには問題がある (21)
3. 主格を取らない人魚構文を説明できない
4. 複合述語ではなくても格標示や修飾の制約は説明可能

(21) 両方の節で否定

hanako=ga    nagoya=ni    **ika-nai**    yotei=de(=wa)    nai  
Hanako=NOM Nagoya=DAT    go-NEG.ADN.NPST    plan=COP    not

## 繰り上げ構文としての人魚構文

仮説: 人魚構文は、統語的に繰り上げ構文の一部として扱うことができる。

このように仮定すると、「花子が名古屋に行く予定だ」という文は次のような構造を持っている。

(22) *hanako=ga* [<sub>i</sub> *nagoya=ni*      *ik-u*]      *yotei=da*  
Hanako=NOM      Nagoya=DAT      go-AND.NPST plan=COP

## 繰り上げ構文のテスト

1. 受動テスト： 埋め込み節を受動態にして意味役割が変化しなければ繰り上げ構文
2. 慣用句テスト： 慣用句を用いたときに慣用句としての意味を保っていれば繰り上げ構文

# 繰り上げ構文のテスト：受動テスト

受動文にしたときに参加者の意味役割が変化していないかどうか

1. (19) *John seems to break the vase.*  
(20) *The vase seems to be broken by John.*
2. (21) *John tries to break the vase.*  
(22) *The vase tries to be broken by John.*

- 繰り上げ構文と同じく、日本語の人魚構文の(23)と(24)では、受動化を経ても意味役割が変化していない→受動化テストを通過している。
- (23) 花子が[太郎を叩く]予定だ。
- (24) 太郎が[花子に叩かれる]予定だ。

人魚構文は繰り上げ構文の受動態テストに通る（ものが存在する）

# 繰り上げ構文のテスト：慣用句テスト

慣用句を繰り上げ構文にした際に慣用句本来の意味が保たれているかどうか

*The cat is out of the bag*

(25) *The cat seems to be out of the bag.*

(26) # *The cat tries to be out of the bag.*

(27) 足が [棒になる] 見込みだ。

人魚構文は繰り上げ構文の慣用句テストに通る（ものが存在する）

# 通言語的分析

## (29) 人魚構文の統語的構成

1. [ NP<sub>SUBJ</sub> PredP ]<sup>IP</sup> … 基底
  2. [ NP<sub>SUBJ</sub> PredP ]<sup>IP</sup> + [ N<sub>MC</sub> (Cop) ]<sup>PredP</sup> … 人魚構文名詞（および繫辞）を付加
  3. [ NP<sub>SUBJ<sub>i</sub></sub> [ t<sub>i</sub> PredP ] [ N<sub>MC</sub> (Cop) ]<sup>PredP</sup> ]<sup>IP</sup> … 基底の節は従属節となり、主語は主節へ繰り上げ
  4. [ NP<sub>SUBJ<sub>i</sub></sub> [ t<sub>i</sub> PredP ] [ N<sub>MC</sub> (Cop) ]<sup>PredP</sup> ]<sup>IP</sup> … 表層の形態的格を付与
- ← case

例外を除けば、[[Clause] N Cop] 型の典型的な人魚構文の構造は、通言語的に繰り上げ構文の一部として扱うことができる





# 通時的分析

省略

## 結論

- 人魚構文を繰り上げ構文の一種として捉えられる  
共時的（統語的）分析による証拠  
通時的な比較検討による一貫性
- 名詞構文を伴う人魚構文という新たな類型を提示
- Tsunoda (2020) の分析の問題点の解消（連体修飾、単節、複合述語）

## 質疑の内容



Q: 人魚構文の本質は名詞の文法化であり、接語になっている場合が多い。そうするとほとんどの事例を説明できなくなってしまうではないか。

A: 統語論の範囲内で扱うときに切り分けたほうが良いのではないかと考えている。特に、日本語の「～予定だ」などは名詞的に振る舞うため、「名詞」として扱うことにした。

日高晋介

「ウズベク語における小詞 *=chi* の機能」

---

## 発表の趣旨

- 先行研究ではウズベク語の=*chi*は「疑問」「強調」「促し・強い命令」「脅し」を表すとされる。

これらの機能を本当に=*chi*自体が担っているのか？



(1) *Endi orqa-ga yo'l yo'q. Oldin-ga=chi?*  
now back-DAT way no front-DAT=CHI

「もう後ろには道がない。前には？」

(Abdurahmonov et al. 1975: 576)

疑問

前文 “*Nega qidiradi? Azimjon kim?*”

「なぜ探すのですか?アジムジョンとは誰でしょうか?」

(2) *Azimjon=chi, sen-ga ammavachcha bo'l-a=di.*

PN=CHI 2SG-DAT cousin be-NPST=3

「アジムジョンは、君に対してのいところになる。」

(Abdurahmonov et al. 1975: 576)

強調

(3) *Xo'sh, endi, ayt-ing=chi, ko'cha-dan nega bezovta kir-di-ngiz?*

well now say-IMP.2PL=CHI street-ABL why disturbed enter-PAST-2PL

「さあ、今話してください、通りからなぜ（そんなに）混乱した状態で入ってきたのですか？」（Bodrogligeti 2003: 1026-27）

促し  
強い命令



(5) *Tez* ***yur-sa-ng=chi.***  
quickly walk-COND-2SG=CHI

「速く歩いてください」

(Abdurahmonov et al. 1975: 576)

ただし、二人称条件形は (6) のように、*=chi* が付かなくとも二人称条件形のみで命令を表せる。

(6) *Men-ga* *biroz* *suv* *ol-ib* ***kel-sa-ngiz.***  
1SG-DAT some water take-CVB.SEQ come-COND-2PL

「私に少し水を持ってきて頂きたいです。」

(中嶋 2015: 81)

促し  
強い命令

脅し

(7) *kel-ib*                      *ko'r=chi,*                      *yon-im-ga.*  
come-CVB.SEQ see.IMP.2SG=CHI                      side-1SG.POSS-DAT  
「来てみろ、私の側に」 (Abdurahmonov et al. 1975: 576)

=*chi* を使わなくても命令形だけで「脅し」を表すことが可能

## 先行研究の問題点・調査

- 先行文脈や発話場面を考慮せずに、当該の文のみから機能を判断している（「疑問」の=chiの他の疑問標示との違い、=chiなしの「促し・脅し」）
- 調査: 1. 自作のコーパス+0 ‘zbek tilining ta’limiy korpusi」  
ウズベク語  
教育用コーパス」  
2. インフォーマントの聞き取り調査

## 調査結果

- 「疑問」、「強調」では、先行文脈のある部分に対して**対照的な要素に =chi が付く**
- 「=chi は、前提との関係を標示している」

(14)    *uzoq*    *asr-lar*    *davom-i-da* (中略) .    **Hozir=chi?**  
          *istant*    *century-PL*    *continuation-3.POSS-LOC*    *now=CHI*

「遠い昔には、(中略)。今は(どうだろうか)?」

# 結論

「疑問」 →1.「対照疑問」 文末、対照的要素にのみ現れる

「強調」 →2.「主題標示」 文末以外、前提に沿う、主題要素

「促し・強い命令」

「脅し」 →3.「促し」 文末、前提に沿う、命令を表す文

## 報告者の視点から

- 2人称複数の条件形は「丁寧なお願い」を表す。だから、=chiがないと、「促し」の意味で捉えにくい。

(6) *Men-ga biroz suv ol-ib kel-sa-ngiz.*  
1SG-DAT some water take-CVB.SEQ come-COND-2PL

「私に少し水を持ってきて頂きたいです。」(中嶋 2015: 81)

- 2人称単数の条件形だけでは「命令」を表さない?

? *Men-ga biroz suv ol-ib kel-sa-ng.*  
1SG-DAT some water take-CVB.SEQ come-COND-2SG

## 報告者の視点から

- OTTKコーパスで “sangiz.”と “sang.”で調べてみた
- “sangiz.”は796例がヒットし、最初の50例のうち38例で、2人称複数の条件形が「丁寧なお願い」を表している。
- “sang.” は98例がヒットし、そのうち2人称単数の条件形で命令を表しているものが4例  
うち、否定形が2例

1. Mening kelganimni bir bildirib kelsang (Alpomish 1998)

「私が来たことを知らせてきて(くれないか)」

2. Inson: Menga bu haqida ko 'proq ma'lumot bersang.

「人: 私にこれについてもっと教えて」

3. "Bug 'doy qani? Bajarmasang...

「むぎはどこだ?(プランを)達成できなかったら...(大変な目に遭うよ)」

4. Oxirgi marta aytayapman: agar hozir yugurib kelib, qo 'limni bo 'shatmasang.

「最後に一度だけ言う、もしすぐに走ってきて私の手を握らなかったら(怒るぞ)」



# 報告者の視点から

## タジク語

疑問詞「chi」は接語の用法では、次を表す (Perry 2005: 295)

「疑いの確認 (confirmation of a suspicion)」

「指導のお願い (a plea for guidance) or 提案の確認 (confirmation of a suggestion)」

「丁寧な提案 (a polite suggestion)」

「丁寧なお願い (a polite request)」

---

### 疑いの確認

(1) O padar-la' nat-ho-e! Bui mo **rasida-ast-chi**?

'Ah the bastards! Have they gotten wind of us, d' you think?'

### 提案の確認

(2) mo har ruz telefon **kunem-chi**?

'Should we phone everyday (or what)'

### 丁寧な提案

(3) hamin vaqt ba kucha baromada, yak davr zada **oyem-chi**?

'Since we're out in the street already, let's take a stroll, shall we?'

### 丁寧なお願い

(4) choy **xuri-chi**? 'will you have tea?'

---

# サマルカンド・タジク語

「疑問」

UZ: *Endi orqa-ga*      *yo'l*    *yo'q.*    *Oldin-ga=chi?*

now back-DAT      way    no    front-DAT=CHI

ST: *Ak(n)un pusht-ba*    *rah*    *nest.*    *Pesh-ba=chi?*

now    back-DAT    way    no    front-DAT=CHI

「もう後ろには道がない。前には？」

「強調」

UZ: *Azimjon=chi, sen-ga ammavachcha bo'l-a=di.*

PN=CHI      2SG-DAT      cousin      be-NPST=3

ST: \**Azimjon=chi, tu-ba ammabachcha mu-shud (me-shavad)*

PN = CHI      2SG-DAT      cousin      IMPF-be

「アジムジョンは、君に対してのいところになる。」

「促し」

UZ: *Xo'sh, endi, ayt-ing=chi, ko'cha-dan nega bezovta kir-di-ngiz?*

well now say-IMP.2PL=CHI street-ABL why disturbed enter-PAST-2PL

ST: ?*Xo'sh, aknun, go'yed=chi, a(z) ko'cha chuva bezota daromadet.*

well now say.IMP.2PL=CHI, from street why disturbed enter.PST.2PL

「さあ、今話してください、通りからなぜ（そんなに）混乱した状態に入って  
きたのですか？」

「強い命令」

UZ: *Tez* *yur-sa-ng=chi.*

quickly walk-COND-2SG=CHI

ST: ?*Tez* *gardi=chi* 「丁寧なお願い」

quickly walk.COND.2SG=CHI

「速く歩いてください」

「脅し」

UZ: *kel-ib*

come-CVB.SEQ

ST: \*omada

come.PTPL

「来てみろ、私の側に」

*ko'r=chi,*

see.IMP.2SG=CHI

*bin=chi*

see.IMP.2SG=CHI

*yon-im-ga.*

side-1SG.POSS-DAT

*yon-am-ba*

side-1SG.POSS-DAT

## 参考文献

- Abdurahmonov, G'. A., Sh. Sh. Shoabdurahmonov, and A. P. Hojiyev (1975) *O'zbek tili grammatikasi I-tom Morfologiya*. [ウズベク語文法 第1巻 形態論] Toshkent: O'zbekiston SSR "Fan" nashriyoti.
- Bodrogligeti, András J. E. (2003) *An academic grammar of Modern Literary Uzbek*. München: Lincom Europa.
- 中嶋善輝 (2015) 『簡明ウズベク語文法』 大阪: 大阪大学出版会.
- Perry, John R. (2005) *A Tajik Persian Reference Grammar*. Brill: Leiden - Boston.
- Tsunoda, Tasaku. (2020). *Mermaid Construction: A Compound-Predicate Construction With Biclausal Appearance*. Comparative Handbooks of Linguistics, 6. Mouton de Gruyter.





# РАНМАТИ КАЛОН